



2013年12月期 株主総会のご報告及び説明会

東証ホール(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
2014年6月10日

アキュセラ・インクは、世界中で数百万人の人々に影響を及ぼしている、視力を脅かす眼疾患を治療または進行を遅らせる可能性のある革新的な治療薬の探索および開発に取り組んでいる、臨床開発段階のバイオ製薬企業です。



免責事項



本資料は関係情報の開示のみを目的として作成されたものであり、有価証券の取得または売付けの勧誘または申込みを構成するものではありません。本資料は、正確性を期すべく慎重に作成されていますが、完全性を保証するものではありません。また本資料の作成にあたり、当社に入手可能な第三者情報に依拠しておりますが、かかる第三者情報の実際の正確性および完全性について、当社が表明・保証するものではありません。当社は、本資料の記述に依拠したことにより生じる損害について一切の責任を負いません。また本資料の情報は、事前の通知なく変更される可能性があります。

本資料には将来予想に関する見通し情報が含まれます。これらの記述は、現在の見込、予測およびリスクを伴う想定（一般的な経済状況および業界または市場の状況を含みますがこれらに限定されません）に基づいており、実際の業績とは大きく異なる可能性があります。今後、新たな情報、将来の事象の発生またはその他いかなる理由があっても、当社は本資料の将来に関する記述を更新または修正する義務を負うものではありません。

2014年 株主総会のご報告



年次株主総会の決議に関するご報告



2014年6月5日、ワシントン州シアトル市で開催された当社の年次株主総会において、下記の通り決議事項が決議されました

• 第1号議案:取締役の選任の件

- 以下の取締役候補者全員が、2015年の年次株主総会においてそれぞれの後任者が選任され権限を付与されるまでまたはそれぞれの早期退任もしくは解任まで、1年間を任期として選任されました。
 - ピーター・A・クレセル (Peter A. Kresel)
 - グレン・Y・サトウ (Glen Y. Sato)
 - マイケル・T・シュツラー (Michael T. Schutzler)
 - ブライアン・オカラガン (Brian O'Callaghan)
 - 窪田 良

• 第2号議案:2014年12月31日終了年度における独立登録会計事務所(アーンスト・アンド・ヤング・エルエルピー)任命の追認の件

- アーンスト・アンド・ヤング・エルエルピーを2014年12月31日終了年度における当社の独立登録会計事務所として任命したことが追認されました。

会社紹介



アキュセラ・インク創業者のご紹介

窪田 良 略歴



眼科専門医として緑内障や白内障などの手術の執刀経験を持つ

- 1991年 慶應義塾大学医学部卒業
- 1996年 日本眼科学会専門医認定を取得
- 1998年 緑内障原因遺伝子であるミオシリンを発見、「須田賞」を受賞
- 1999年 慶應義塾大学医学部大学院修了博士号取得
- 2000/01年 米国ワシントン大学に眼科シニアフェローおよび助教授として勤務
- 2002年 アキュセラ・インクを設立
- 2011年 『日経ビジネス』誌の第一回「次代を創る100人」に、日本の次世代に最も影響力のある1人に選出
- 2012年 『AERA』誌の“現代の肖像”に掲載される。同年5月に、北カリフォルニア日本協会とスタンフォード大学日米技術経営センターが共同で実施した「Japan-U.S. Innovation Awards」で、Emerging Leader - Japanを受賞

アキュセラ・インク



企業理念:

視力を脅かす眼疾患の撲滅を目指し、革新的な新薬の探索および開発に取り組む

経営方針:

- 革新的なサイエンスを応用し、有効な治療法のない眼疾患の治療に貢献する
- 社会に貢献する企業であり続ける
- よりよい職場環境作りを目指し、社員の生活向上を重視する

会社概要



アキュセラ・インクは視力を脅かす眼疾患を治療または進行を遅らせることを目指す革新的な治療法の探索および開発に取り組んでいる、臨床開発段階のバイオ製薬企業です

- 2002年設立
 - 代表者 窪田良
- 2014年2月13日、東京証券取引所マザーズ市場へ上場(証券コード:4589)
- 所在地
 - 米国本社(ワシントン州シアトル市)
 - 研究所(ワシントン州ボセル市)
 - 日本事務所(東京都渋谷区)
- 事業内容: 視覚サイクルモジュレーター(VCM)化合物の開発

「エミクススタト塩酸塩」:アキュセラが自社開発したVCMのリード化合物

- 経口投与型の地図状萎縮を伴うドライ型加齢黄斑変性の治療薬候補
- FDA(米国食品医薬品局)が認可する地図状萎縮を伴うドライ型加齢黄斑変性の初の治療薬となる可能性
- 2010年3月にFDAからファスト・トラックに認定
- 5件の臨床第1および1件の臨床第2a相試験を既に終了済
- 2014年3月に臨床第2b/3相試験被験者登録完了
 - 被験者の薬剤投与期間(プラセボ投与含む)は2年間を予定
 - 本試験のトップライン結果の発表は、2016年中旬頃を予定

ビジネス戦略



視力を脅かす眼疾患に対する新たな治療薬を創薬、開発または導入し、商業化することを目的とした戦略の立案

ビジネス戦略の主要要素：

- 自社研究および新規業務提携を通じたパイプラインの継続的拡大
- 視覚サイクルモジュレーター（VCM）の薬理的アプローチの啓蒙活動
- 当社パイプラインの開発および商業化
- 大塚製薬との提携によるパイプライン開発の推進
- 当社インフラの整備と継続的拡張

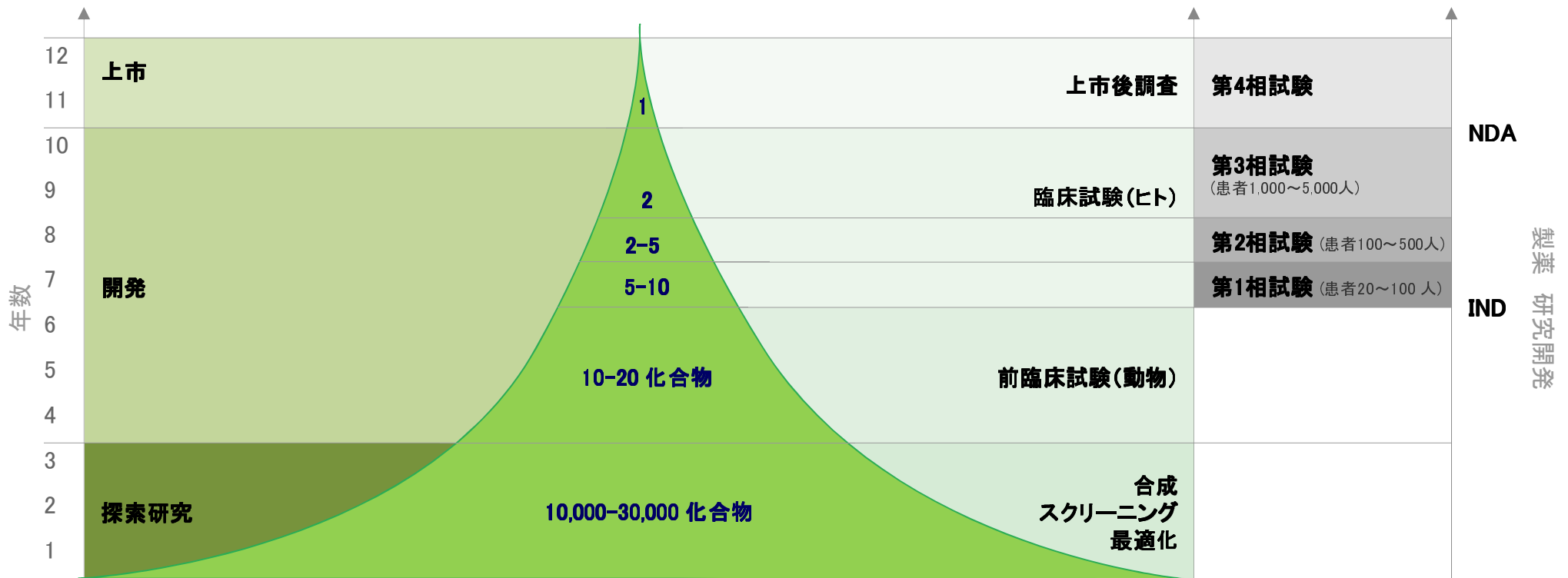
大塚製薬とのパートナーシップ



当社の大株主であり、長期的戦略を念頭においた提携関係

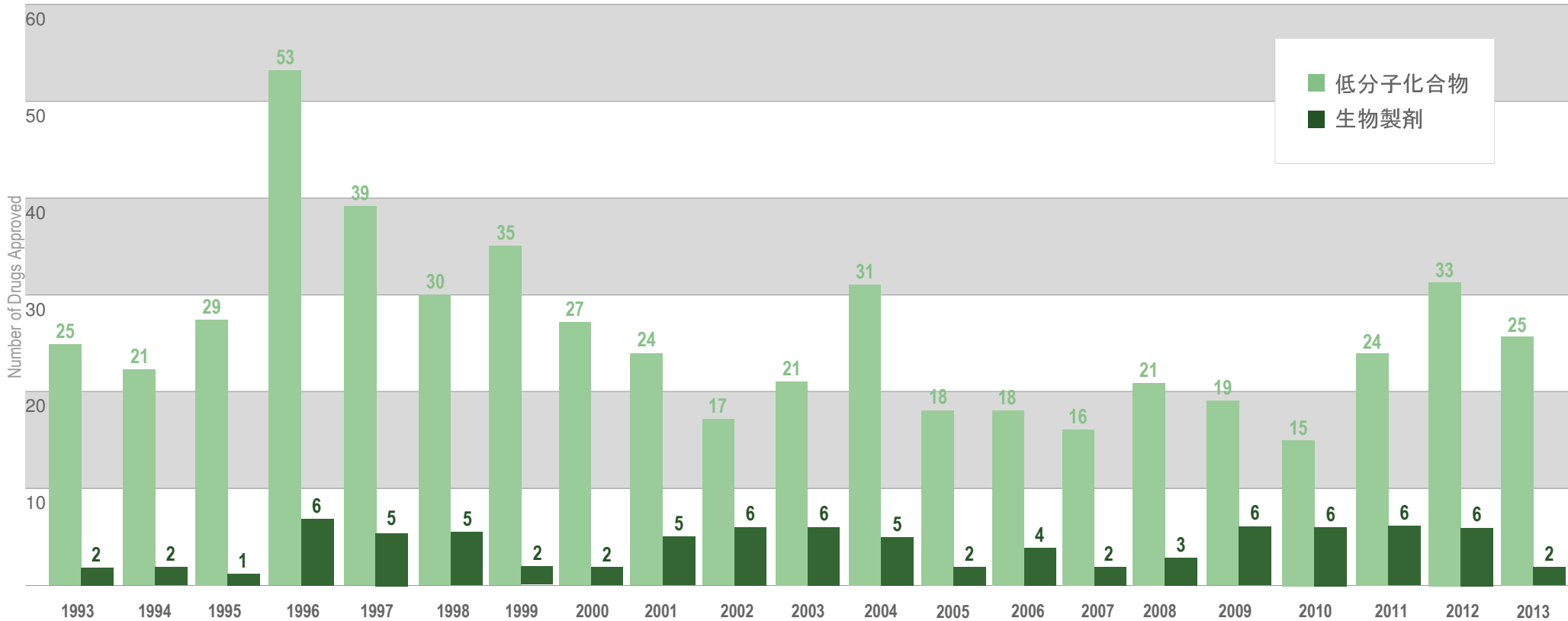
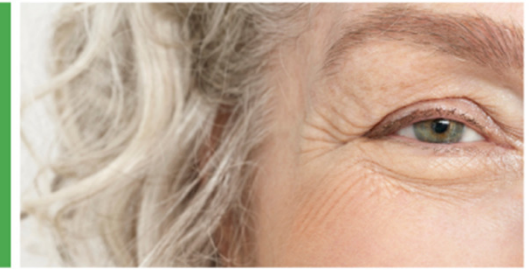
- 2008年9月
 - 「エミクススタト塩酸塩」ならびにそのバックアップ化合物をドライ型加齢黄斑変性およびその他の眼科適応症を対象に共同開発および共同販売する契約を締結
- 2010年9月
 - 当社と大塚製薬は、大塚製薬と緑内障(眼圧下降)化合物「OPA-6566」に関する共同開発および共同販売契約を締結
- 2008-2013年
 - 5年間にわたりドライアイ症候群の治療薬候補である「レバミピド」の共同開発を実施
- 大塚製薬とアキュセラ社の共同運営委員会を設置し、提携事業を運営・管理

薬剤開発の成功確率



出典: Drug Information Association.

FDAに承認された薬剤数（1993年以降）

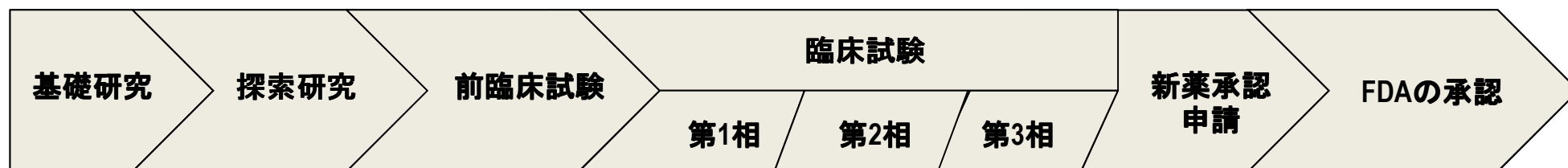


FDAに承認された薬剤数（1993年以降）

1993年以降、医薬品評価研究センター（CDER）に承認された低分子化合物数と生物製剤数。生物製品評価研究センター（CBER）に承認された薬剤は含まれていない。低分子化合物に関するデータはDrugs@FDA.com、生物製剤に関するデータは米国食品医薬品局（FDA）より得たものである。

出典: *Nature Reviews*, February 2014, volume 13. no.2. page 86

米国における新規医薬品開発プロセス



• 臨床第1相試験

- 被験薬が最初にヒトへ投与される試験

• 臨床第2相試験

- 疾患または症状を有する患者を対象として実施されるコントロール試験で、主に被験薬の有効性および短期的副作用、被験薬のリスクを評価することを目的としている

• 臨床第3相試験

- 大規模臨床試験で、コントロール試験と非コントロール試験で、被験薬のリスク・ベネフィットの総合評価に必要な有効性および安全性に関する追加データを入手することと、添付文書の記載に必要な情報を入手することを目的としている

出典: Authenticated US Government Information, 21 CFR 312.21; 4-1-01 Edition; pages 62-63

出典: FDA (White Paper Prescription Drug User Fee Act (PDUFA))

パイプライン



医薬品	前臨床	第1相	第2相	第3相	オリジネーター ⁽²⁾	当社のテリトリー	知的財産権満了日
視覚サイクルモジュレーター (VCM)	加齢黄斑変性				当社	北米(共同)、EU、南米およびアフリカ	2029年11月 (延長する場合があります) ⁽³⁾
	エミクス外塩酸塩	糖尿病性網膜症/糖尿病性黄斑浮腫					
		スターガート病、網膜色素変性症、未熟児網膜症 ⁽¹⁾					
その他のVCMおよび網膜製品候補		スターガート病、網膜色素変性症、未熟児網膜症				全世界	
OPA-6566	緑内障				大塚製薬	米国(共同) ⁽⁴⁾	2025年4月 ⁽⁵⁾

(1) バックアップ化合物

(2) 化合物保有者のことをいいます。

(3) ハッチ・ワックスマン法による特許期間の延長および特許使用の追加の場合を除きます。

(4) 臨床第2相試験および臨床第3相試験の完了時に共同開発および共同販売を選択する権利があります。

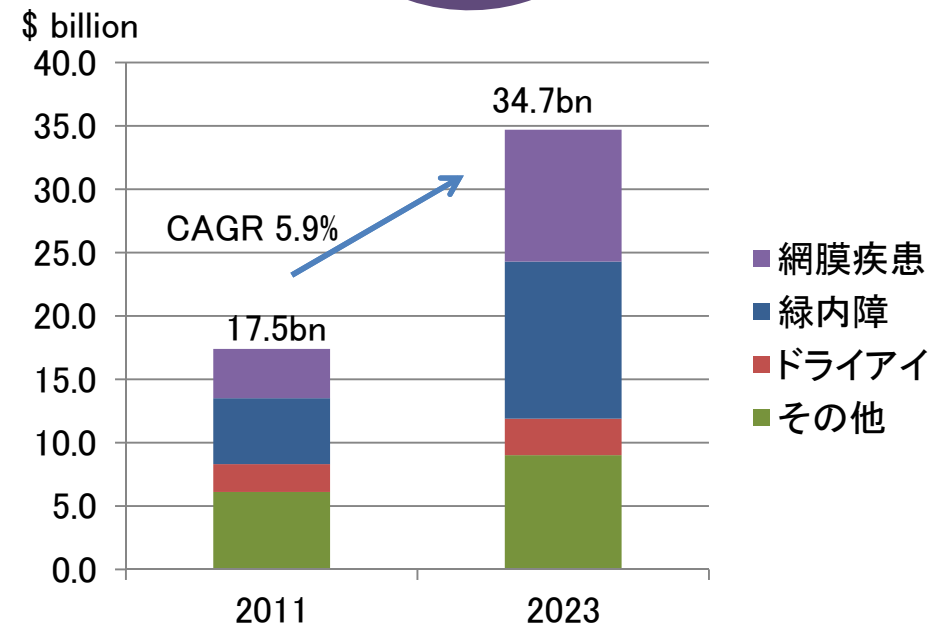
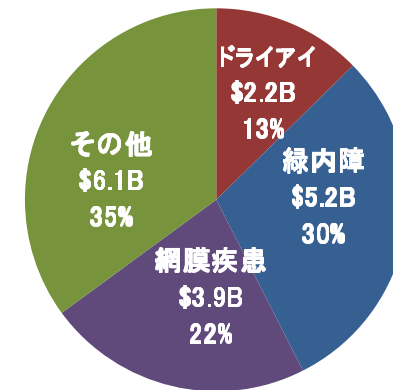
(5) 「OPA-6566」の特許期間は、そのオリジネーターである大塚製薬により最大で5年間延長できる可能性があります。

市場の動向



- 大きな市場規模にも関わらずまだ十分な治療法が確立されていない疾患領域
- 世界の眼科医薬品市場規模⁽¹⁾
 - 今後も成長が期待される有望市場
(年複利平均成長率5.9%)
 - 2011年:175億米ドル(実績)
 - 2023年:347億米ドル(予測)
- 当社の主要化合物
 - 世界の眼科医薬品市場の50%⁽²⁾超を占める
2つの眼疾患(網膜疾患、緑内障)を対象

2011年度の世界眼科医薬品市場⁽¹⁾



⁽¹⁾ 出典: 独立調査会社visiongain社

⁽²⁾ 2011年の市場価格ベース

視覚サイクルモジュレーション



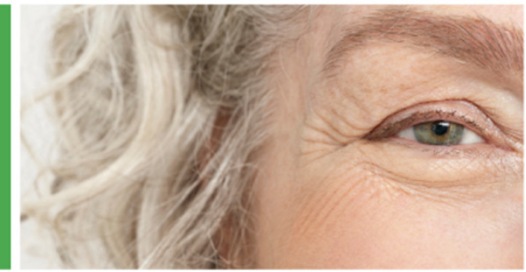
視覚サイクルモジュレーションとは？



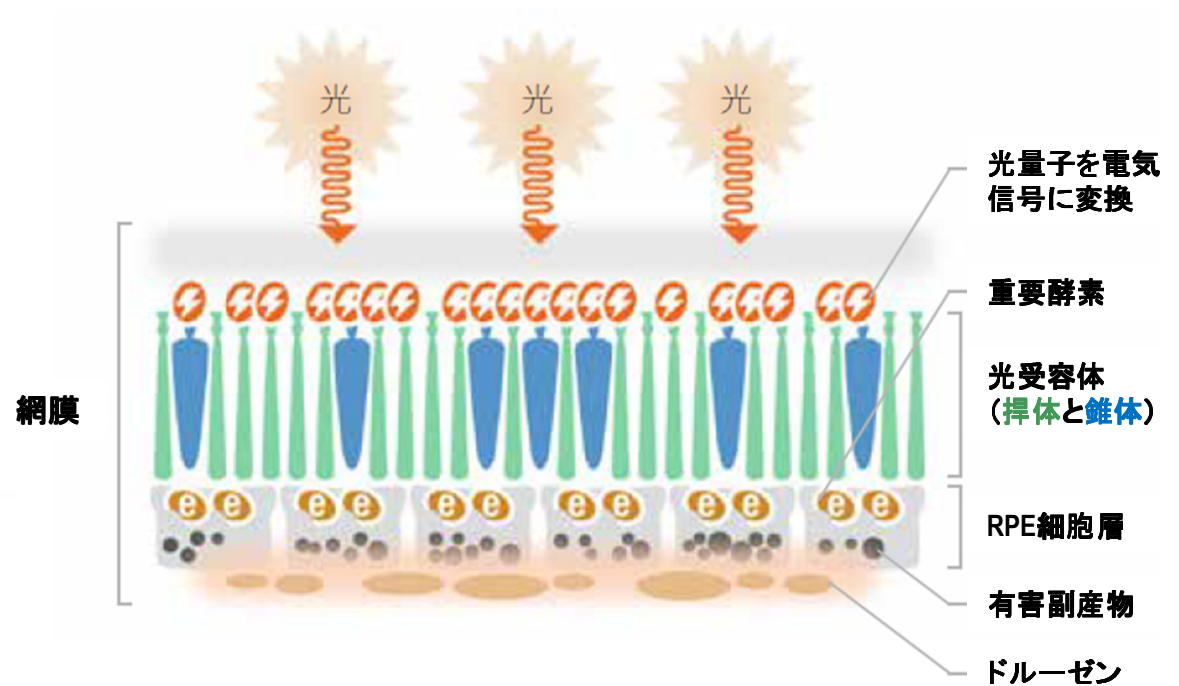
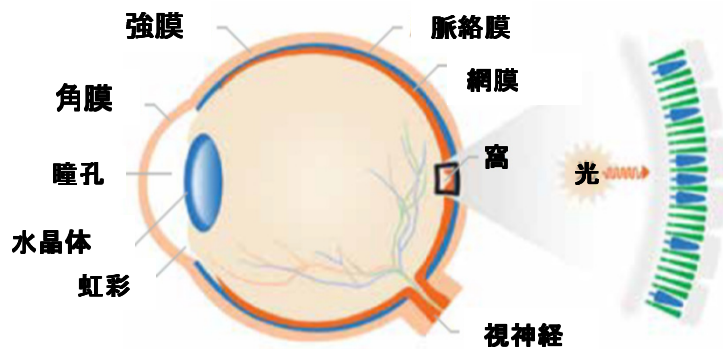
- 視覚サイクルモジュレーションの概念はどのような経過を経て生まれたのか？
- なぜ、どのように発見されたのか？
- その語源は？
- ユニーク、革新的な理由は？
- なぜ経口薬にこだわるのか？



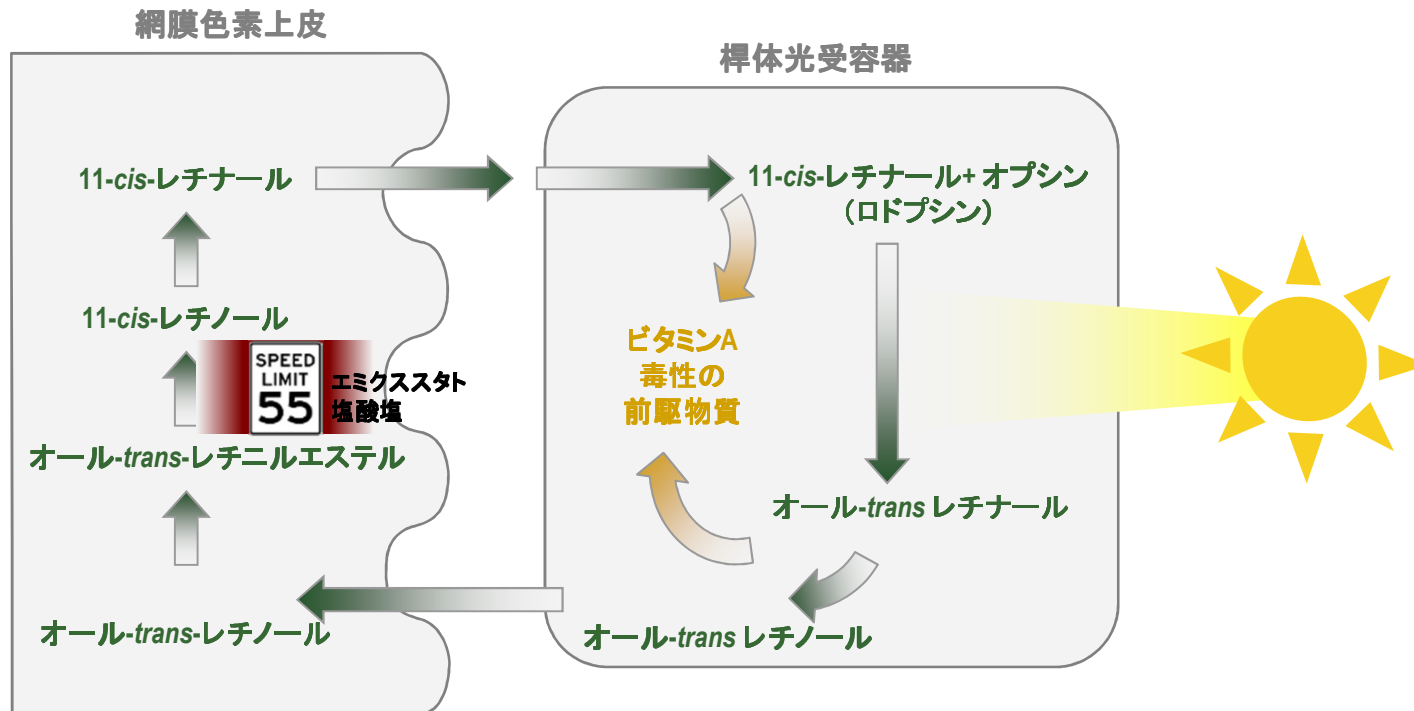
視覚サイクル



視覚サイクルとは、眼球の後部にある網膜内にて光子が電気信号へと生物学的に変換するために必要な仕組みのことで、最終的に変換された電気信号は脳で映像として認知されます。強い光に暴露されると、視覚サイクルが過剰に活動し、有害副産物が網膜内にて産生されます

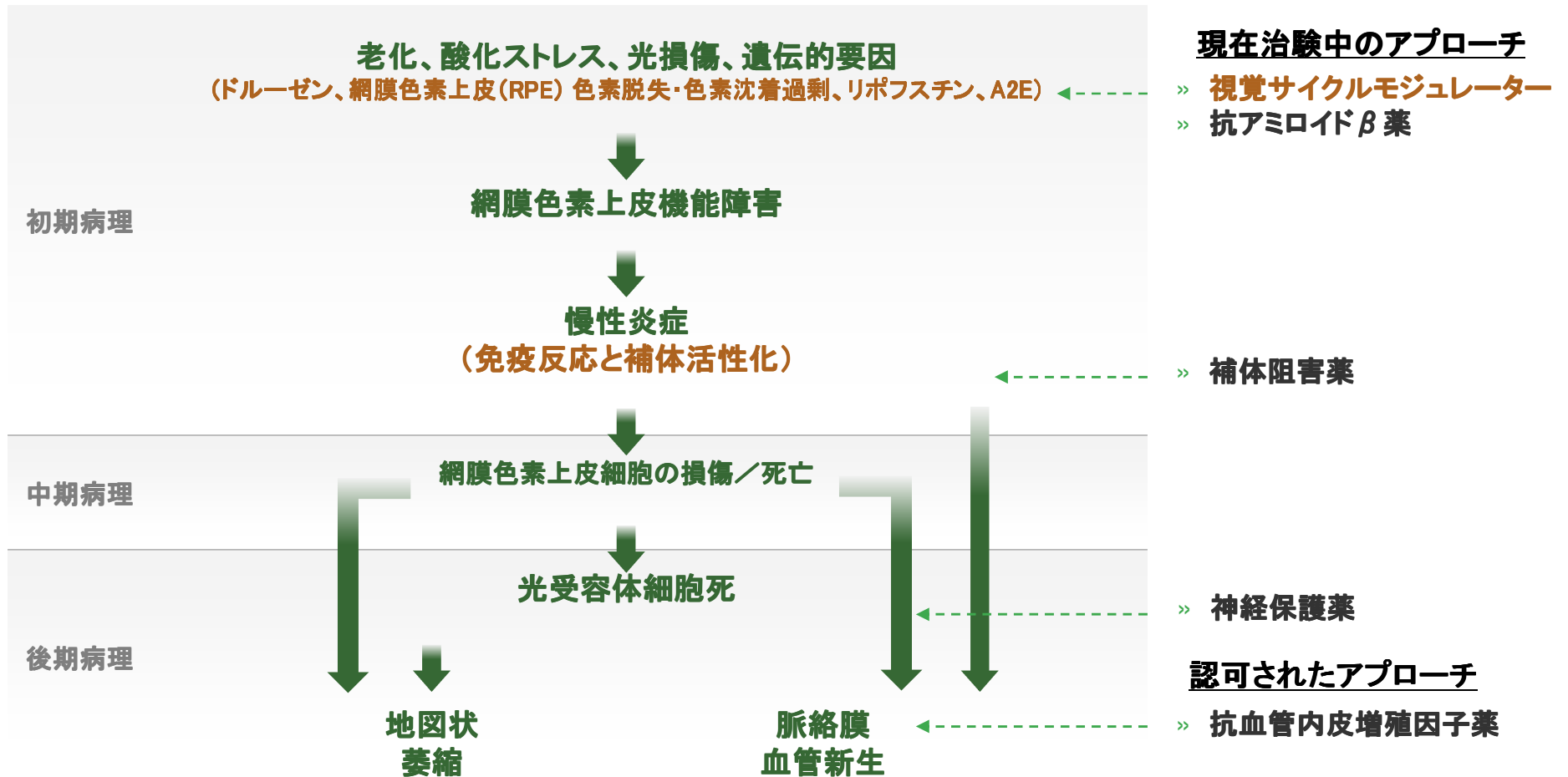


視覚サイクルでビタミンA関連毒素を生成



- 哺乳類の視覚サイクルでは、イソメラーゼの一つであるRPE65が、ビタミンAを視覚発色団である11-*cis*レチナールに転換する重大な役割を果たす
- 視覚発色団は、桿体光受容体中のオプシンと結合してロドプシンを形成する
- ロドプシンの光活性化により、電気化学カスケードを引き起こし、その結果視覚が生じる
- 11-*cis*レチナールと光活性化されたロドプシン(オール-*trans*レチナール)は、自然発生的に膜脂質と反応する可能性があり、A2EのようなビタミンA毒性を生成する

加齢黄斑変性症 (AMD): 病態仮説とそのアプローチ

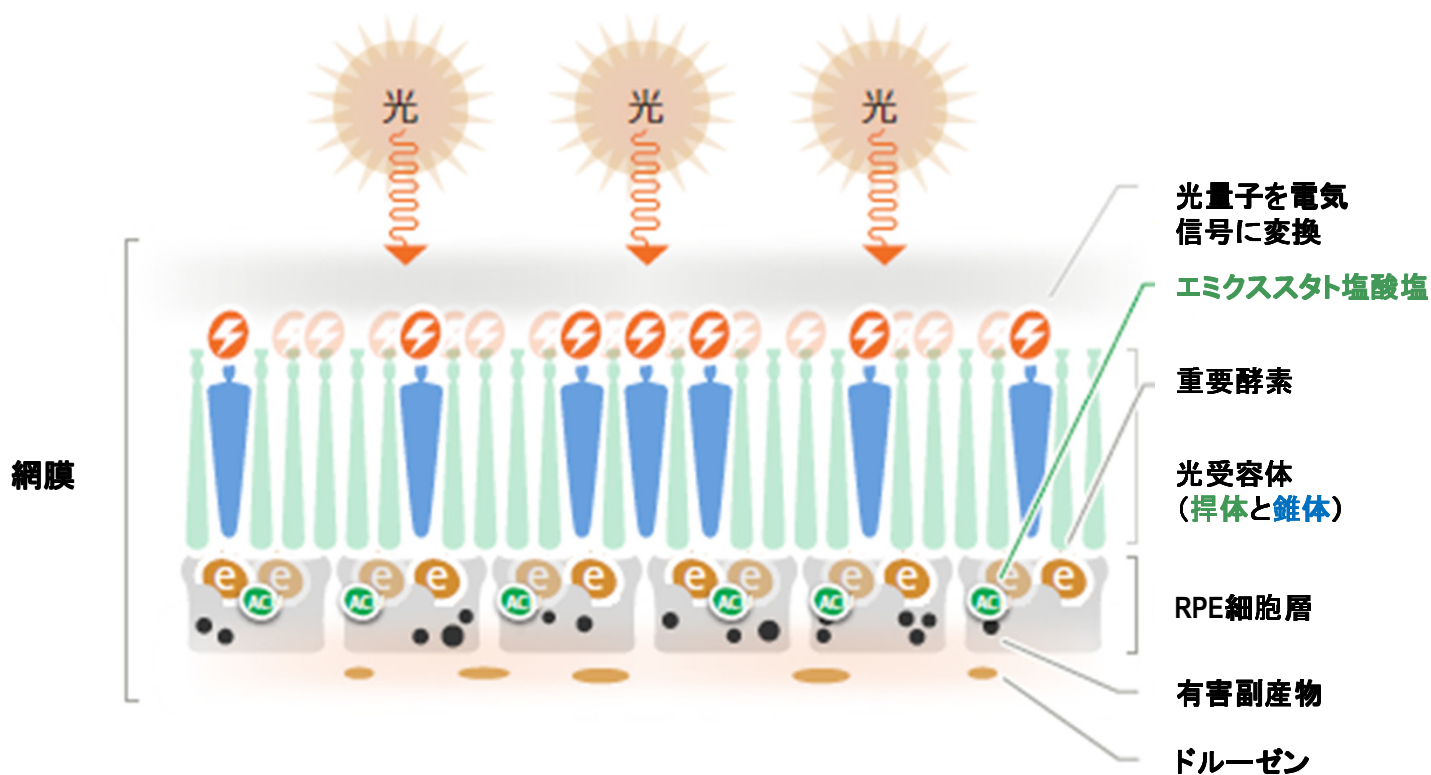


出典: Kanda A. et al, Inflammation in the pathogenesis of AMD. Br J Ophthalmol 2008; 92: 448-450

視覚サイクルモジュレーション技術



視覚サイクルモジュレーションは、当社創業者がパイオニアとしての存在として着目し開発を推進している治療技術で、当社による臨床開発や特許ポートフォリオの構築を通して、当社がその主導的地位を確立し維持しています



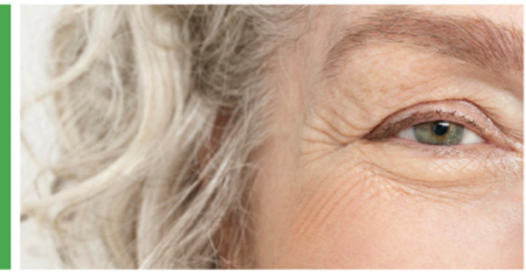
「エミクススタト塩酸塩」



加齢黄斑変性による中心視力障害



網膜に選択的に作用する 「エミクススタ塩酸塩」



視覚サイクルモジュレーターが網膜に選択的に作用することにより、
全身性の副作用を回避

「エミクススタ塩酸塩」

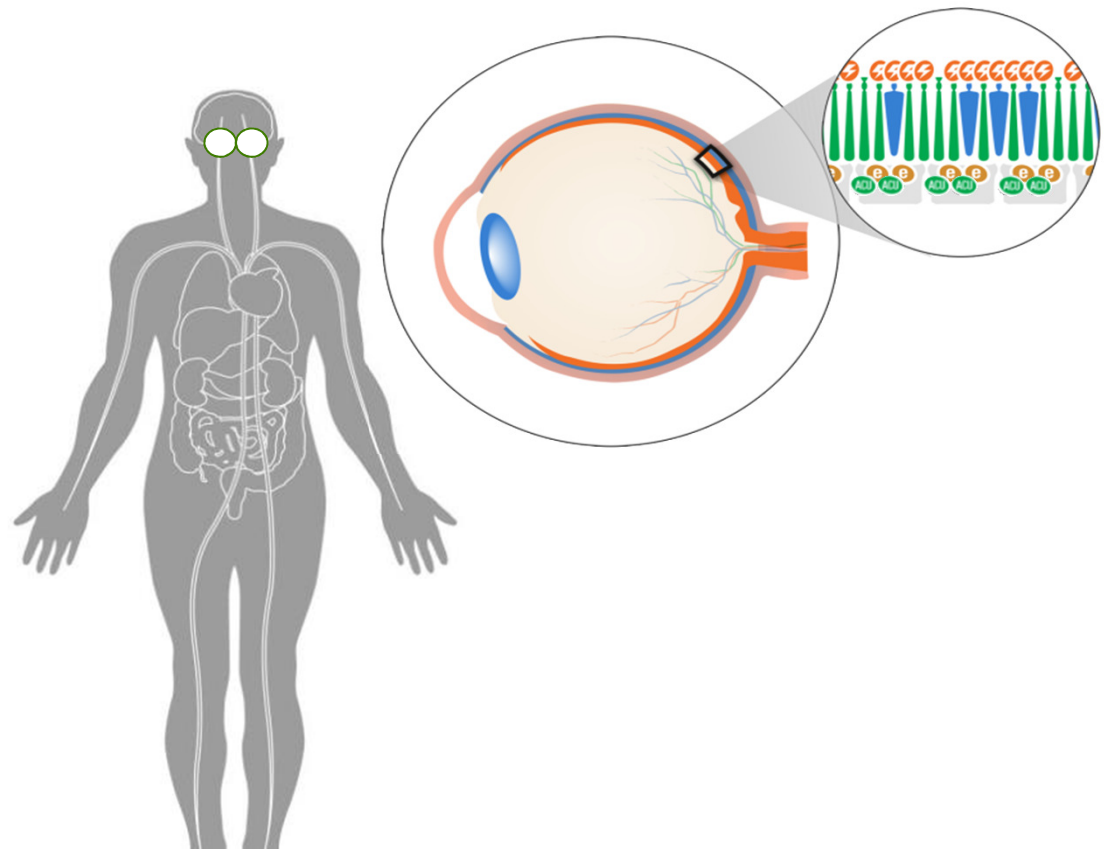
- 光受容体内の11-*cis*レチナールを減少

作用機序

- 視覚サイクルに重要な酵素RPE65
イソメラーゼに選択的に作用
- 同酵素は網膜色素上皮細胞層内に
特異的に発現

非レチノイド低分子化合物

- 全身に存在しているビタミンA核内受容
体であるレチノイン酸受容体には作用
しない



「エミクススタ塩酸塩」開発の経緯

(地図状萎縮を伴うドライ型加齢黄斑変性治療薬)

当社が自社開発した視覚サイクルモジュレーター化合物



- › 毒性試験
- › 前臨床試験
- › 探索研究

- › IND申請
- › ヒトでの臨床試験を開始

- › 5件の臨床第1相試験実施
- › 臨床第2a相試験実施 (GA患者対象)
- › 合計179例の被験者に「エミクススタ塩酸塩」を投与
- › FDAからファスト・トラック対象に指定

- › 臨床第2b/3相試験被験者登録完了 (合計508名)

2005

2007

2008

2009

2012

2013

2014

- › 臨床第2b/3相試験開始
- › 投与期間2年の試験

(1)GA—地図状萎縮のことをいいます。

「エミクススタト塩酸塩」 臨床第2b/3相試験



• デザイン

- 地図状萎縮を伴うドライ型加齢黄斑変性患者を対象とし、本剤の安全性と有効性をプラセボと比較する、無作為化⁽¹⁾二重盲検用量範囲探索試験

• 評価項目

- 主要評価項目
 - 本剤投与群の地図状萎縮の進行遅延効果をプラセボ投与群と比較
- 副次的評価項目
 - 安全性および認容性
 - 最高矯正視力の変化
 - 脈絡膜血管新生(ウェット型加齢黄斑変性)に対する効果

• 進捗状況

- 被験者登録完了(合計508名)
- 当該24ヶ月の臨床試験のトップライン結果⁽²⁾は2016年中旬頃を予定

(1) 無作為化—治療群を、治験責任医師等の判断ではなく、ランダムに割り付けて実施し評価を行う試験方法。出典：www.clinicaltrials.gov.

(2) トップライン結果—トップライン結果とは、通常、臨床試験の結果が事前に設定された主要評価項目に達成したか否かを評価するための、ハイレベルな結果のことを言います。

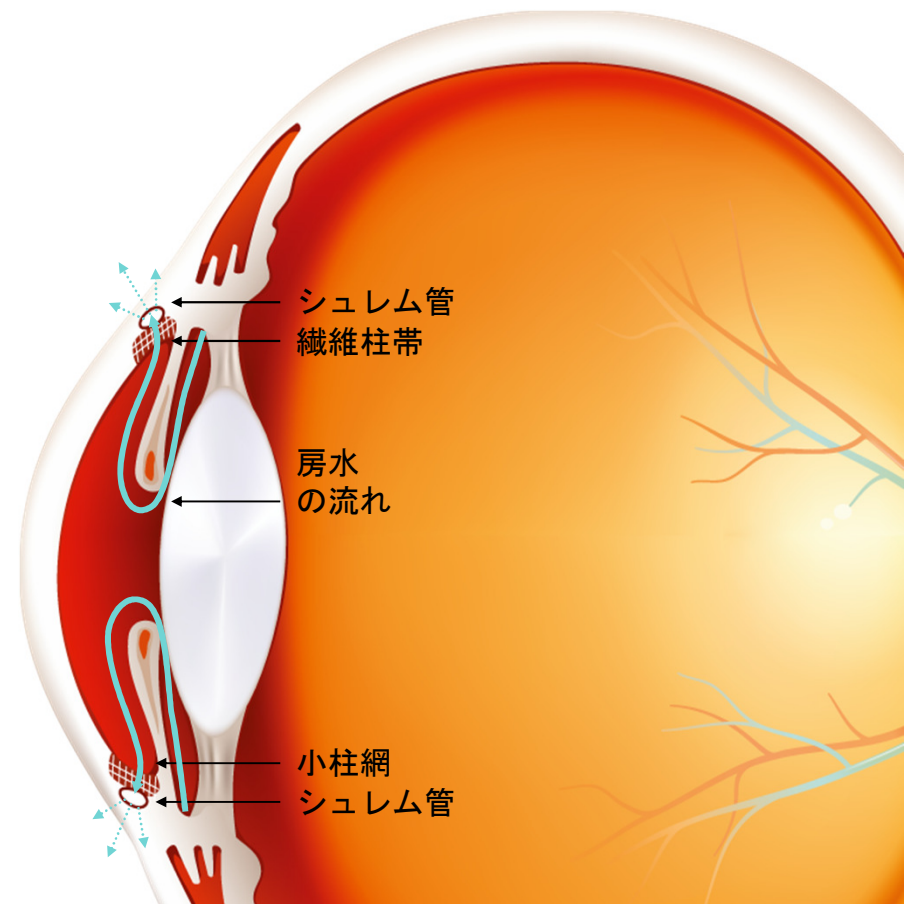
「OPR-6566」



緑内障治療薬候補「OPA-6566」



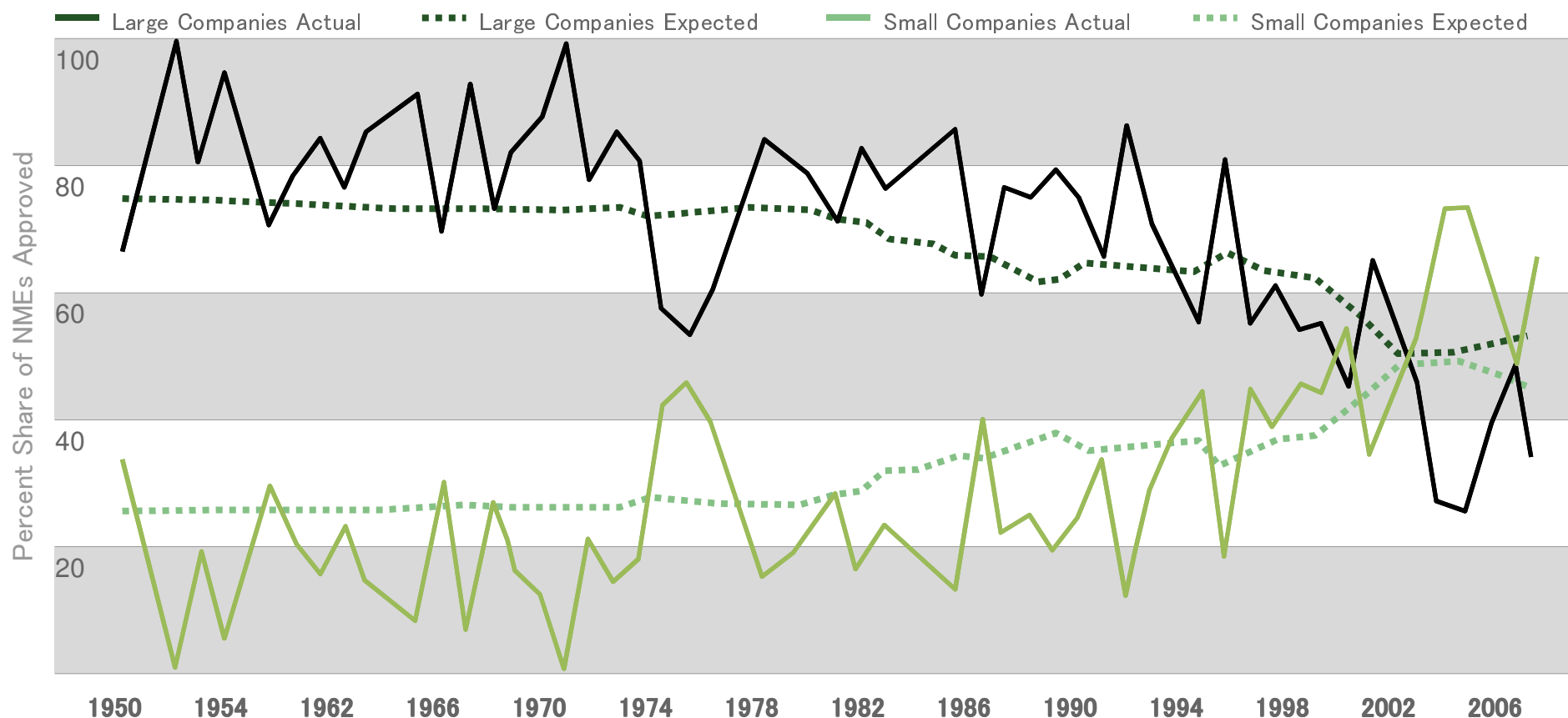
- **概要**
 - 選択的アデノシンA2a受容体アゴニスト
 - 従来の緑内障治療薬にはない新しい作用メカニズム
- **開発状況**
 - 2011年6月INDをFDAに提出
 - 開放隅角緑内障または高眼圧症の患者に対する臨床第1/2相試験を米国において実施
- **臨床第1/2相試験**
 - ファースト・イン・ヒューマン、無作為、多施設、プラセボ対照および実薬対照 (latanoprost)、治験責任医師盲検化、投与量増加(4量)、並行群間試験により、160人の被験者に対し4週間にわたり安全性、薬物動態および有効性(眼圧下降効果)を評価することを意図した試験
- **今後の開発方針**
 - 米国において実施された臨床第1/2相試験の結果から、さらなる非臨床評価の必要性が示唆された。今後の開発方針に関しては、これらの追加試験の結果を踏まえた上で評価検討する予定



医療分野にイノベーションが必要とされる理由



新規化合物の承認数比較 製薬企業 vs ベンチャー



2008年 Burrill & Companyのレポート(1):

- バイオ企業は、研究開発費にあまり投資をせずにしてイノベーションを生み出している
 - バイオ企業の研究開発費は年間280億ドル
 - 製薬企業の研究開発費は年間500億ドル

出典: The Burrill & Company 25th Annual Report on the Life Sciences Industry (33頁)

(1) The Burrill & Company 25th Annual Report on the Life Sciences Industry (33頁Fig. 2.11.)

イノベーション創造の鍵



- **多様性を尊重:** 多様性を尊重する環境をつくることは、イノベーションの創造とイノベーティブな課題解決に必要不可欠である
 - 時間をかけて多様なアイデアに耳を傾ける
 - 自分のチームとそのダイナミクスを信じる; 様々なバックグラウンドを持った人を周りに集める
 - 新しいアイデアを追い求める; 大胆なアイデアでも最善の解決策を導くことがある
- **価値ある失敗:** イノベーションにリスクはつきもの。リスクをとって失敗しても、成功につながる価値を見出すことが重要である
 - 失敗はイノベーションを実現する道のりである
- **信頼関係の構築:** 受け入れの姿勢、誠実さ、積極的なコミュニケーションが信頼を築く
 - 「80/20ルール」多数派、少数派、どちらの意見も平等に受け入れる
 - 明確なビジョンの構築およびコミュニケーションによるそのビジョンの伝達、は創造的な問題解決の基盤となる
 - 正しい探究心と好奇心から得られるメリットを熟知し、“無関心”を捨てる

コアコンピテンシー



Adaptive

Collaborative

Unique

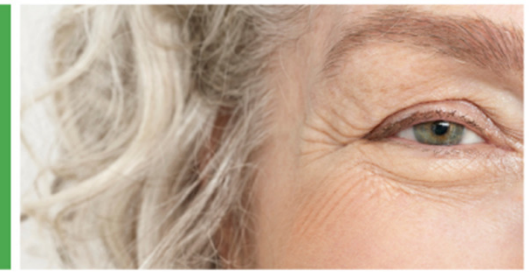
Curiosity

Excellence

Long-Term

Accountable

イノベーター: 従来の発想捨てて、 新しい『もの』を創出する人物、組織



アキュセラ社は、新規技術の構築とイノベーターとしての地位を確立

- 通常、バイオベンチャーを地下室で設立するのは不可能であると言われていた
しかし、当社は地下室で設立された
- 通常、全くの新規開発候補薬の同定は2年では不可能であると言われていた
しかし、当社はそれを達成した
- 通常、薬理学的にヒトの視覚サイクルを調整することは不可能であると言われていた
しかし、当社はそれを達成した
- 起業しても、バイオベンチャーは10年継続するのは困難であると言われていた
しかし、当社はそれを達成した
- 前例のない米国企業の東京証券取引所マザーズ市場への単独上場は難しいと言われていた
しかし、当社はそれを達成した

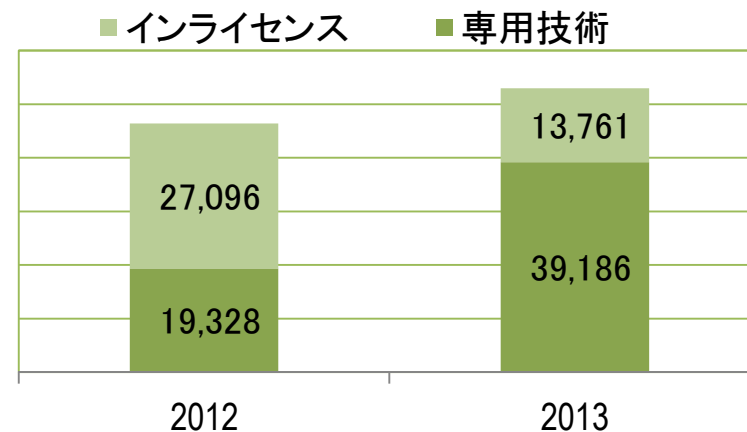
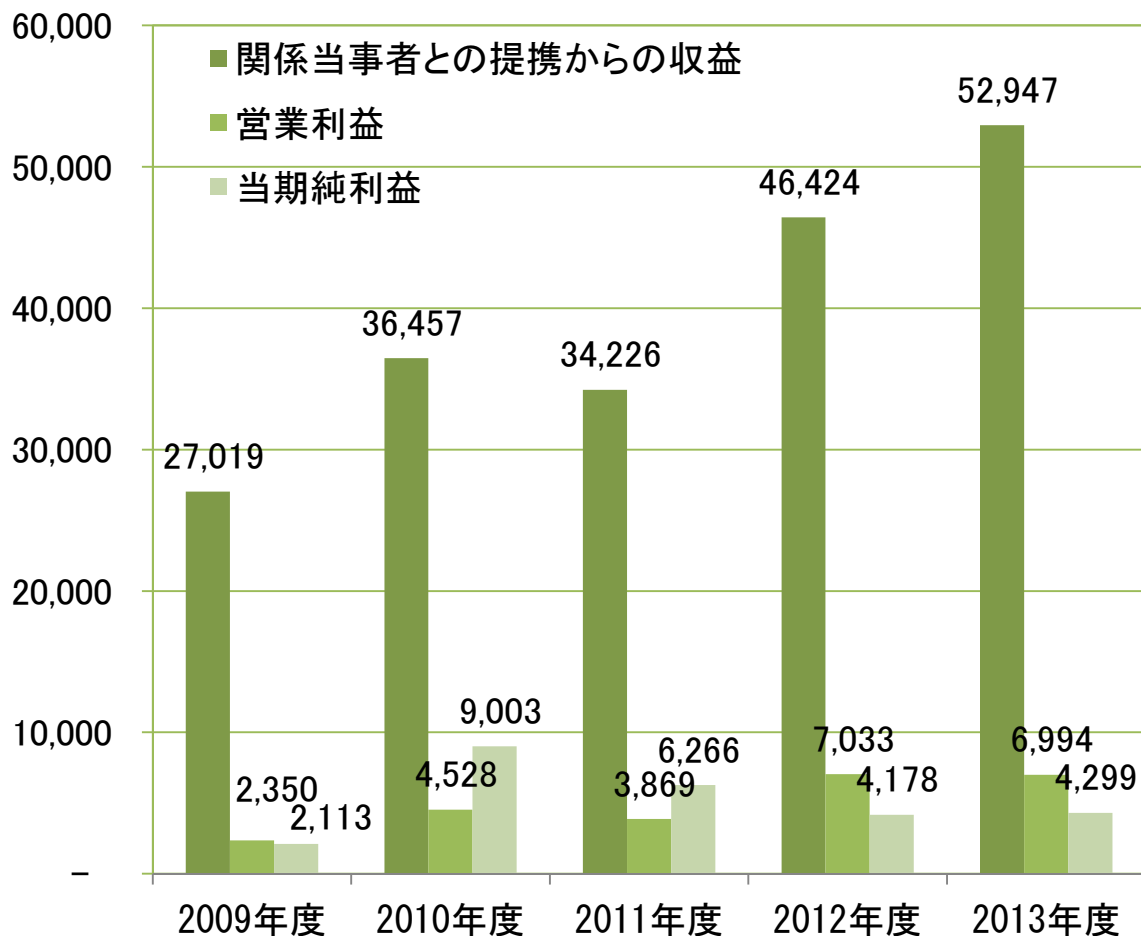
財務狀況



損益計算書データ



(千ドル)



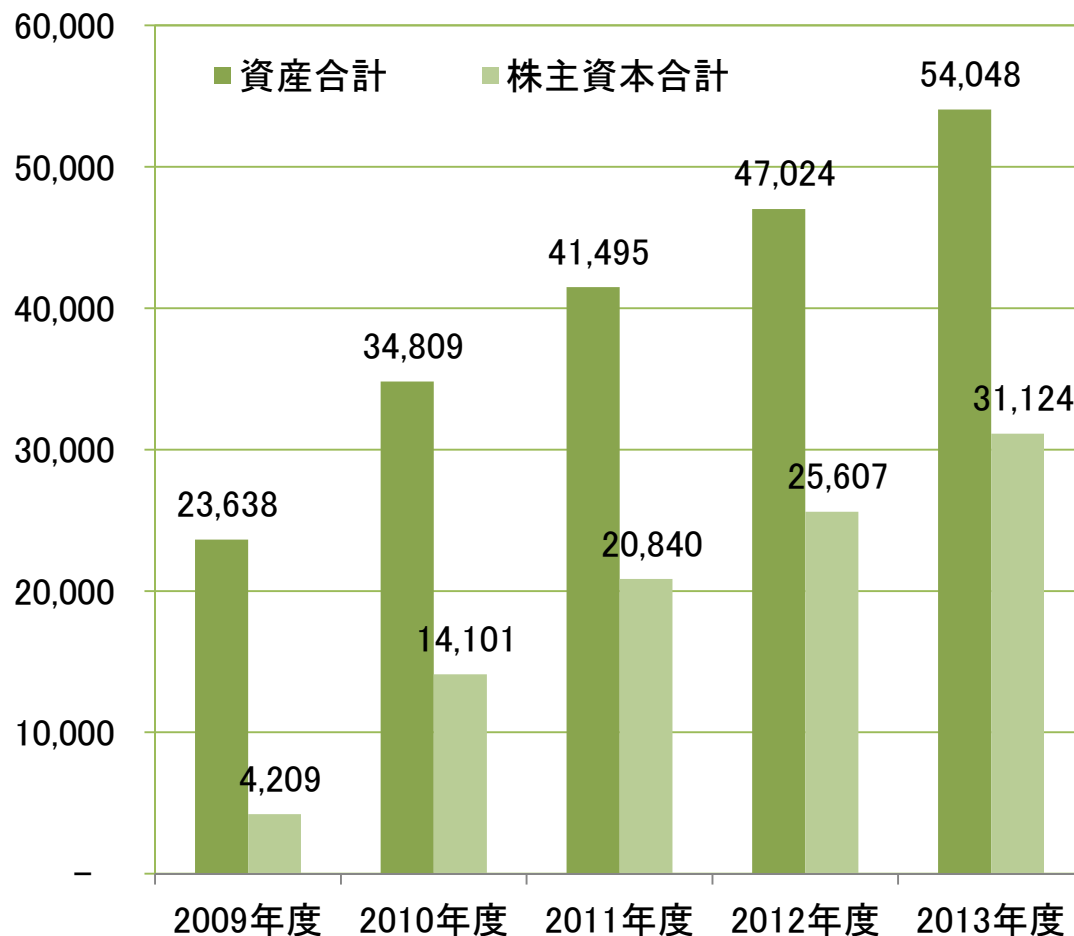
- 専用技術: エミクススタト塩酸塩に基づく臨床プログラムからの収益増加の主な要因は、臨床第2b/3相試験の準備、開始および遂行に関する活動の増加ならびにかかる試験の開始に関連した5.0百万米ドルのマイルストーン支払いによるもの
- インライセンス: インライセンス臨床プログラムからの収益減少の主な要因は、2012年10月における緑内障契約に基づく臨床第1/2相試験の完了による6.6百万米ドルおよび2013年9月におけるレバミピド契約解除による6.7百万米ドル減収に起因するもの。尚、レバミピド契約が解除された結果、返還条項が終了となったことによる2.0百万米ドルの繰延収益が差し引かれている

注: 当社の財務情報は、米国で一般的に認められた会計基準 (GAAP) に準拠して作成された財務書類に基づいております。
2009年および2010年12月31日のデータは、未監査の財務書類から抜粋されたものです。

貸借対照表データ



(千米ドル)



資産

- 流動資産は、前年対比で6.9%増加。これは、支払請求および回収のタイミングに起因する未収金1.6百万米ドルの増加、ならびに当社の開発プログラムに関連する前払費用およびその他の流動資産の0.4百万米ドルの増加による
- 非流動資産は、前年対比で57.8%増加。これは主に、長期投資の3.5百万米ドルの増加、繰延株式発行費用の4.3百万米ドルの増加および課税所得を減殺するために純営業損失を活用した結果としての、長期繰延税金資産の2.6百万米ドルの減少による

株主資本

- 前年対比で21.5%増加。これは主に、当期における会社利益の結果として累積欠損が4.3百万米ドル減少したことによる

注：当社の財務情報は、米国で一般的に認められた会計基準（GAAP）に準拠して作成された財務書類に基づいております。
2009年および2010年12月31日のデータは、未監査の財務書類から抜粋されたものです。

マネジメントチームおよび役員紹介



マネージメントチーム



窪田良 (MD, PhD)
代表取締役会長・社長兼CEO



**ヘン・
デ・ヤング**
(CHIC, SPHR)
副社長
人事担当



**デヴィッド・L・
ローランス(CPA)**
最高財務責任者



**カリン・ルドヴィック
(MD)**
副社長
臨床開発担当



光延 佳子
エグゼクティブ
ディレクター、
アライアンス&
事業戦略



**ハンズ・ピーター・
フレジャー (PhD)**
副社長
コマーシャル・
オペレーション&
マーケティング戦略






**スーザン・
シュナイダー (MD)**
エグゼクティブ
メディカル
アドバイザー



**シーシ・ワン
(PhD, CCRP)**
エグゼクティブ
ディレクター
クリニカル
オペレーション

役員一覧



役員	年齢	役職	略歴
窪田 良 MD, PhD 	47	会長・社長兼 最高経営責任者	<ul style="list-style-type: none"> • 当社創業者、2005年4月より取締役会長を務める • 慶應義塾大学にて講師およびワシントン大学にて助教授を務めた • 米国眼科学会(AAO)、視覚眼科研究協会(ARVO)、日本眼科学会、慶應医学会、在日米国商工会議所(ACCJ)、一般社団法人日米協会の会員 • ワシントン州日米協会理事、Japan Institute of Global Health (JIGH)のアドバイザー、G1 ベンチャーのアドバイザー・ボードを務める
ピーター・A・クレセル 	70	取締役	<ul style="list-style-type: none"> • 2007年8月より当社取締役 • アラガン社において、国際薬事規制担当上級副社長として勤務 • Bristol-Myers Squibb Companyにおいて国際薬事規制担当役員を務めた • シラキュース大学微生物学理学士号、経営学修士号取得
グレン・Y・サトウ 	54	取締役	<ul style="list-style-type: none"> • 2009年8月より当社取締役 • 2006年から法律事務所であるCooley LLPでパートナー • PDL BioPharma Inc. およびExelixis, Inc. では最高財務責任者を務めた • ウェズリアン大学の経営学学士号取得 • カリフォルニア大学法学博士号および経営学修士号取得

2014年3月現在

役員一覧(続き)



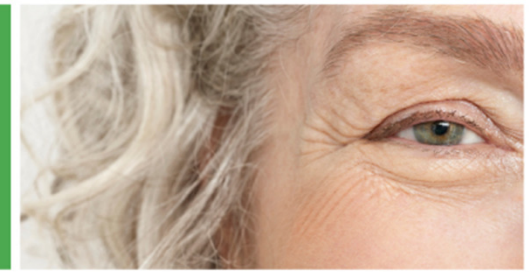
役員	年齢	役職	略歴
マイケル・シュツラー 	51	取締役	<ul style="list-style-type: none"> 2012年5月より当社取締役 ワシントン州テクノロジー産業協会の現CEO Livemocha, Inc.のCEOおよび取締役を務めた CEOsherpa LLCの創業者 Digital Forest Inc.、Talent Spring Inc.、FlowPlay Inc.の役員を務めた ワシントン大学のマイケル・G・フォスター・スクールオブビジネスのイノベーション・アンド・アントレプレナーシップ・センターにおいてアドバイザー・ボードのメンバーを務める ペンシルベニア州立大学理学士号取得、ロチェスター大学経営学修士号取得
ブライアン・オカラガン 	44	取締役	<ul style="list-style-type: none"> 2013年9月より当社取締役 Sonrgy社の現会長兼CEOを務める Sangart社の社長、CEO兼役員を務めた BIOCOM社、Aquavit Biopharma社および San Diego Century Clubの現役員 NPS Pharmaceuticals社、Covance社、Novartis Pharmaceuticals社の管理職を務めた ヘンリー・カレッジ・オブ・ビジネス・マネジメントでMBAおよびコーク・リージョナル・カレッジ／マーケティング・インスティテュート・オブ・アイルランドでマーケティング・ディプロマを取得

2014年3月現在

アキュセラ・インクの沿革・歴史



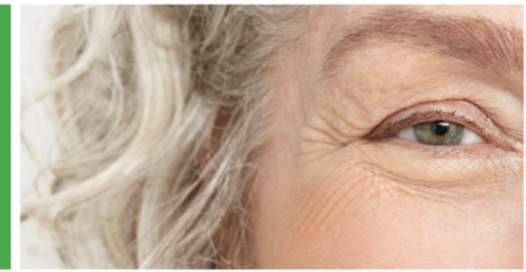
アキュセラ・インクの歴史



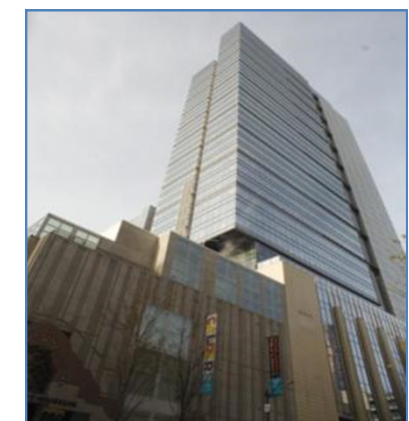
年代	イベント
2002年4月	自宅の地下室にて会社設立(シアトル)
2002年8月	正社員の採用と民間のインキュベーション施設にラボ開設
2003年7月	ワシントン大学よりオキユスクリーンの技術移転
2003年10月	シリーズAファイナンス (\$2.1M)
2003年10月	富山化学とオキユスクリーンの技術提携
2004年11月	シリーズBファイナンス (\$13.4M)
2006年3月	シアトル郊外ボセルに本社を移転
2007年1月	ワシントン大学よりビタミンA誘導体に関する技術移転
2007年1月	ビタミンA誘導体を用いた臨床試験を開始
2007年3月	シリーズCファイナンス (\$25M)
2007年9月	2種のSBIRグラントを取得



アキュセラ・インクの歴史(続き)



年代	イベント
2008年5月	アキュセラ独自化合物、ドライ型加齢黄斑変性治療薬「エミクススタ塩酸塩」臨床第1a相試験開始
2008年9月	大塚製薬と加齢黄斑変性に関する\$250Mの共同開発契約を締結ならびにドライアイ治療のための共同開発契約の2つの契約を締結
2009年12月	ドライアイ患者を対象とした「レバミピド点眼」臨床第2相試験開始
2010年1月	地図状萎縮を伴うドライ型加齢黄斑変性患者を対象とした「エミクススタ塩酸塩」臨床第2a相試験開始
2010年3月	FDAより「エミクススタ塩酸塩」に対するファスト・トラックの指定を受ける
2010年9月	大塚製薬と緑内障(眼圧下降)化合物「OPA-6566」に関する共同開発および共同販売契約を締結
2010年9月	創業の地シアトルに再移転



アキュセラ・インクの歴史(続き)



年代	イベント
2011年8月	高眼圧症または開放隅角緑内障患者を対象とした「OPA-6566」臨床第1/2相試験開始
2012年7月	ドライアイ患者を対象とした「レバミピド点眼」臨床第3相試験開始
2013年3月	地図状萎縮を伴うドライ型加齢黄斑変性患者を対象とした「エミクススタ塩酸塩」臨床第2b/3相試験開始
2014年2月	東京証券取引所マザーズ市場へ上場
2014年3月	地図状萎縮を伴うドライ型加齢黄斑変性患者を対象とした「エミクススタ塩酸塩」臨床第2b/3相試験被験者登録完了





アキュセラ・インクは、世界中で数百万人の人々に影響を及ぼしている、視力を脅かす眼疾患を治療または進行を遅らせる可能性のある革新的な治療薬の探索および開発に取り組んでいる、臨床開発段階のバイオ製薬企業です。

